

長野県神社庁報

第141号

令和7年
8月1日

長野県神社庁
庁報発行委員会
庁報編集委員会
長野市箱清水1-3-28
電話 026-232-3355
FAX 026-233-2720

神楽太

しんしゅう

特集—第63回神宮式年遷宮特集『御神木祭』

戦後80年特集 | 靖国神社「みたままつり」

沖縄「信濃の塔」慰霊祭

昭和100年特集 | 懐かしの「昭和百年」に見る神社の風景



庁長就任の挨拶

長野県神社庁長 滝 和人

県内神社関係者の皆様にあかれましては、日々奉仕神社の護持運営と共に当庁の諸業務に深い御理解と御協力を頂戴しておりますこと厚く御礼申し上げます。

去る三月十二日開催の定例協議員会での役員改選により、皆様からの御信任を頂き改めて今年三年間も庁長の席をお預かりさせて頂く事となりました。

本年は畏くも天皇陛下よりの御聴許を賜りました第六十三回神宮式年遷宮が三重県伊勢市の神宮でいよいよ始動する年度となります。

この度の御遷宮に於いても、当県は御神鏡をお納め申し上げる「御樋代木」を伐採する御杣山に御治定さ



総代会長就任の挨拶

長野県神社総代会長 藤村 吉彦

県内各神社の氏子総代の皆様におかれましては、地域の氏子の代表として神職の皆様とともに神社の護持運営にお勤め頂いておりますこと心より深く敬意を表しますと共に、私も県神社総代会の諸事業に関して日頃より御高配を頂戴しておりますこと厚く御礼申し上げます。

本年三月十日開催の県神社総代会定例協議員会に於いて、図らずも今年三年間も引き続き県神社総代会長

れる栄誉を賜りましたことから、御遷宮奉賛に対しては率先垂範すべき重い勤めがございます。

今後は各神社へも御奉賛の御依頼を申し上げることとなりますが、何卒御理解御協力をお願いいたく存じます。

さて、神社を取り巻く状況は御承知の通り大きく変容し、信仰や神社への向き合い方また価値観が変化し、神社管理体制存続の危機さえ感じられます。

しかしながら、このような困難の中で先人達が継承されてきた心を受け取り、更に次代へ紡いでいくことを自ら考え実行することこそが我々に課された使命ではないかと考えております。

県内関係者には改めて「敬神生活の綱領(15ページ参照)」をご覧頂き、先人達より託された敬神の心に想いを寄せて頂き今後も御奉仕を続けて頂ければ幸いに存じます。

の職をお預かりすることとなり、前期同様に皆様と共に進んで参りたく存じております。

さて、既に皆様も御承知の通り本年はいよいよ長野市を会場として、全国神社総代会大会が十月二十八日に開催されます。(最終ページ参照)

私も県神社総代会始まって以来の最大の行事となり準備等を現在も進めておりますが、やはり全国からの皆様をお迎えするには、県内の氏子総代の皆様のお力をお借りしなければ難しいものがございます。

皆様と共に当日の大会を大いに盛り上げて、全国よりお越しの皆様楽しい大会であったとの思い出をお持ち帰り頂けるよう、県内よりも大勢の氏子総代の皆様の御参加をお待ちしております。

日誌抄

(主要行事のみ抜粋)

令和六年 十一月

26日 中信地区氏子総代研修会 於大町市

十二月

9～10日 第70回伊勢神宮新穀感謝祭

16日 総代会支会会長会

令和七年 一月

16日 神社庁初会議

20日 教化部合同会議

23～24日 東海五県神社庁事務研修会 長野県当番

28～31日 沖繩信濃の塔慰霊祭 南安曇支部奉仕

30日 南信地区氏子総代研修会 於茅野市

二月

5日 理事会

14日 総代会役員会

19日 雅楽研修会 於穂高神社

26～27日 東海五県神社庁教化神政連 合同会議 於諏訪市

27～28日 浦安の舞研修会 於深志神社

三月

3日 神宮大麻暦頒布終了奉告祭

5日 神宮大麻暦頒布終了祭 於神宮

10日 総代会定例協議員会 於神宮

11日 東信地区氏子総代研修会 於佐久市

11日 北信地区氏子総代研修会 於神社庁

12日 第106回神社庁定例協議員会 於茅野市

17～18日 教化部研修旅行 於京都市周辺

新役員名簿

本年度より三年間の任期で選任されました

長野県神社庁役員

庁長

滝 和人(木 曽)

副庁長

水野 邦樹(上水内)

宮坂 信廣(松塩筑)

理事

渡邊 克彦(南佐久)

甲田 圭吾(上 小)

山崎 洋文(上 小)

竹内 直彦(大 北)

前島 正(諏 訪)

白鳥 俊明(上伊那)

山崎 佳宏(南安曇)

石川 彰(飯 水)

丸山 肇(長 野)

藤村 吉彦(松塩筑)

水澤 健治(北佐久)

監 事

上條 哲哉(松塩筑)

五明 貴寿(更 級)

春日 利夫(南佐久)

早出 洋一(諏 訪)

顧問

小平 弘起

近藤 政彰

湯澤 廣雄

宇治橋 淳

本庁評議員

滝 和人(木 曽)

水野 邦樹(上水内)

宮坂 信廣(松塩筑)

藤村 吉彦(松塩筑)

五県評議員

前島 正(諏 訪)

保尊 勉(南安曇)

傘木 則興(大 北)

長野県神社総代会役員

会 長

藤村 吉彦(松塩筑)

副会長

水澤 健治(北佐久)

伊倉 順治(長 野)

小松 俊夫(上伊那)

理 事

工藤 勇(上 小)

熊谷 芳巳(下伊那)

高村 征弘(更 級)

松澤 求(南安曇)

水野 邦樹(上水内)

宮坂 信廣(松塩筑)

太田 秀史(長 野)

監 事

春日 利夫(南佐久)

早出 洋一(岡谷市)

顧問

湯澤 廣雄

滝 和人

支部長

南佐久 鷹野 健

北佐久 武者 幸彦

上 小 石和 大

諏 訪 八木 勇三

上伊那 立澤 寿江

飯 伊 太平 英文

木 曾 宮田 利彦

松塩筑 隠岐 光洋

南安曇 保尊 勉

大 北 松井 秀吾

更 級 五明 貴寿

更 埴 片岡 一仁

上高井 久保田守彦

下高井 前澤三喜夫

上水内 越志 秀徳

飯 水 高橋 穰

長 野 矢澤 是

支会長

南佐久 春日 利夫

北佐久 水澤 健治

上 小 工藤 勇

諏訪郡 中村 茂夫

諏訪市 河西 紀一

岡谷市 早出 洋一

茅野市 大久保賢一

上伊那 小松 俊夫

下伊那 熊谷 芳巳

飯田市 横田 延之

木 曾 小谷 宗司

松塩筑 藤村 吉彦

南安曇 松澤 求

大 北 松澤 啓

更 級 高村 征弘

更 埴 保木野幸雄

須 高 藤本富士雄

中 高 山本 高明

上水内 鈴木 誠司

飯 水 月岡 壽男

長 野 伊倉 順治

24日 神政連代議員会

26～27日 第27回子供参宮団

28日 事務担当者会

28日 神職総会

4日 正副庁長会

9日 東海五県神社庁臨時評議員会
於愛知県

14日 理事会

16日 総代会役員会

23日 辞令伝達式

13日 東海五県神社庁評議員会
於三重県鳥羽市

14日 東海五県神社庁連合日総会
於三重県伊勢市

21日 神社本庁表彰式
於明治記念館

22～24日 神社本庁定例評議員会
班斂式

30日 東海五県神政連臨時連絡協
議会 於熱田神宮会館

3日 第63回神宮式年遷宮御杣始祭
於木曽郡上松町

4日 第63回神宮式年遷宮御神木
奉安祭 於木曽郡上松町

5日 第63回神宮式年遷宮裏木
伐採式 於岐阜県中津川市

6日 第63回神宮式年遷宮御神木
奉送祭・御樋代木奉搬

19日 理事支部長合同会議

19日 神社庁新旧役員歓送迎会

22～23日 浦安の舞研修会
於ホテル犀北館

26～27日 祭式指導者研修会
於長野縣護國神社

29日 第13回神社検定試験



「皇大神宮(内宮)」宇治橋

御遷宮のしおり①：御遷宮いろは

第六十三回神宮式年遷宮が、三重県伊勢市の「神宮」で令和十五年に行われます。今年の六月には、木曽で「御杣始祭」が行われ、上松駅前で「御神木祭」が行われました。その報告の前に、「御遷宮」について改めて、「一緒に学びたいと思います。」

「神宮」とは？

今では「明治神宮」「熱田神宮」「伊弉諾神宮」「北海道神宮」など、「神宮」の社号を使われている神社が全国に数多くありますが、その昔は「伊勢の神宮」と「鹿島神宮」と「香取神宮」の三社だけでした。

一般に「伊勢神宮」と呼ばれることが多いので、あえて「伊勢の神宮」と書きましたが、正式には「神宮」というと伊勢の「神宮」のことだけを示します。

そして「内宮（ないくう）」「外宮（げくう）」の他に、「別宮（べつぐう）十四社」「摂社（せつしゃ）四十二社」「末社（まつしゃ）二十四社」「所管社（しょかんしゃ）四十二社」を合わせた一二五社の総称を「神宮」といいます。また、ないくう・げくうは、「ぐう」ではなく「くう」と濁らずに発音します。



全く同じ形で建築された「皇大神宮(内宮)」新御正宮

神 宮

作：とし 絵：まこ



父である「伊邪那岐（いざなぎ）大神」母である「伊邪那美（いざなみ）大神」の子どもで、天を照らすといった字に現されるように太陽を司る神さまでです。太陽の光が大地を照らし、私たちの生命を育む絶対的に大切な御存在、神さまの中でも最高の

「天照大御神」は何の神さま?

「天照大御神（あまてらすおおみかみ）」が祀られていることは広く知られています。が、前段でお話しの通り一二五の御社がありますから、「外宮」の「豊受大御神（とようけのおおみかみ）」を始め様々な神さまがお祀りされています。

「神宮」には何の神さまが祀られているの?

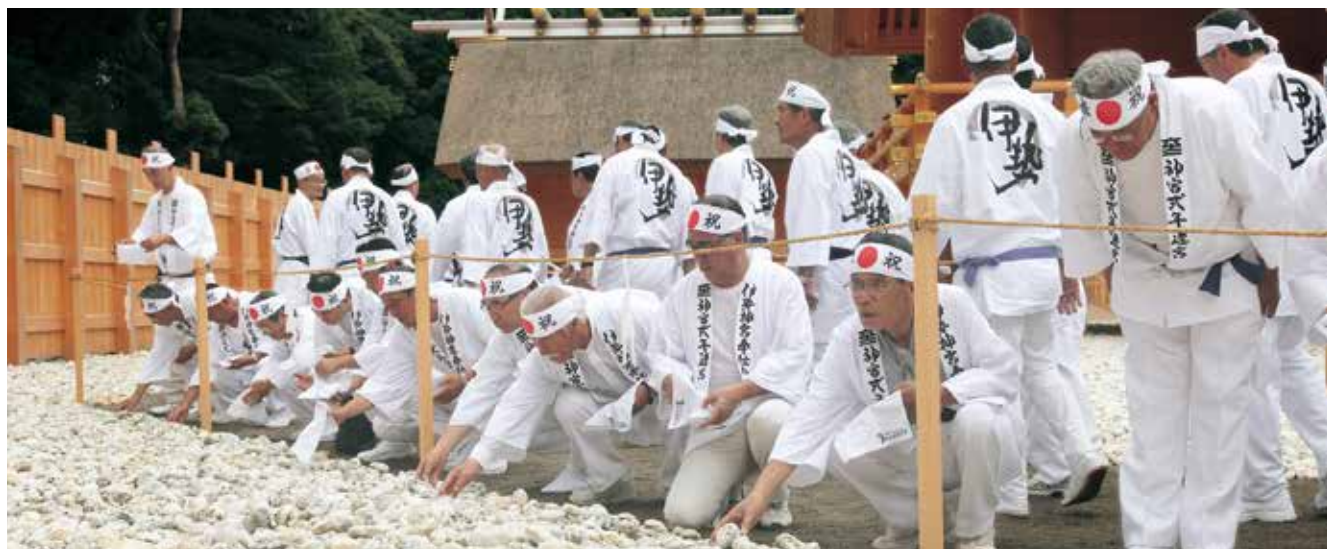
神さまで、皇室の神さま、日本人の総氏神さまであります。

式年とは?

定められた年のこと、つまり「式年祭」というと「決められた期間ごとに行われる祭典」のことをいいます。伊勢の「神宮」では、二十年を式年として二十年に一度「御遷宮」を行っています。

伊勢神宮ホームページ

<https://www.isejingu.or.jp/index.html>



第62回神宮式年遷宮「御白石持行事」

「御遷宮」とは？

神さまの建物を新しく築き、神さまにお遷り頂くことをいいます。

「神宮」の御遷宮は、今の建物(「正宮」しゅうぐう)の隣りにある「御敷地(みしきち)」にまったく同じ建物を築いて、神さまを今の「正宮」から新しく築いた「正宮」にお遷り頂くことをいいます。

西の御敷地から東の御敷地へ、二十年後には、東の御敷地から西の御敷地へと神さまがお遷りになる「御遷宮」は、昔ながらの作法によって続けられています。

今回で第六十二回？

今回で六十三回目を数える「御遷宮」は千三百年以上にわたり国家の一大重儀として続いています。長い長い歴史の間には室町時代に百年以上の間、中断せざるを得ないこともあったようです。ひとたび中断されたものを復興する大変さは、コロナ禍を経て我々神社関係者は特に身に沁みて感じる場所ではあります。更に昭和に入り戦後の「御遷宮」は国家の手を離れ国民総奉賛として続けられています。



平成25年10月2日 第62回式年遷宮「遷御(内宮)」

なぜ二十年に一度なの？

天武天皇の御発意により始められたものですが、「二十年に一度」の理由は明らかではなく、明らかなのは天武天皇がお定めになったものだからです。この理由には様々な説があり、「御用材の耐用年数が二十年だから」「御用材に持ちうることの出来る檜の育成度合いを鑑みて」「常に清浄な環境で大神様をお祀りするため」「神嘗祭(かんなめさい)でお供える穀物の最長保存期間が二十年だから」「旧暦では約二十年に一度、立春と元旦が重なる最大の吉日があったから」などなど。

それらの中でも一番有力とされている説は、「技術の継承に最も適した年月だから」。建物だけではなく、神宝といわれる衣服や装束・武具・楽器・文具や日用品なども新調され、古代の文化と技術・技と心が脈々と現代に受け継ぎ伝えられています。

いつ「御遷宮」が行われるの？

第六十三回の神宮式年遷宮は、令和十五年を予定していますが、今年の五月には「御遷宮」最初の神事であり「山口祭」と「木本(このもと)祭」が行われ、六月に



遷宮は祭儀の他にも伝統技術の継承も行われます

第63回神宮式年遷宮特設ページ

<https://www.isejingu.or.jp/sengu/the63rd/>



は木曾におきまして御神体を納める「御樋代」の御用材を伐り出す「御杣始（みそまはじめ）祭」が行われました。この御神木を「神宮」に送り出すまで木曾での一連の行事や祭典を「御神木祭」といいますが、次ページより紹介致します。また、令和十五年までの八年間にわたり様々な祭典・行事が執り行われますが、詳細は裏表紙にて紹介をさせていただきます。（日付は未定）

写真提供／神宮司庁



国民総奉賛による遷宮御奉賛に御理解と御協力をお願いします



御杣始祭

御杣始祭

六月三日



杣夫により三ツ緒伐りでの伐採風景

当日は、雨が降りしきるとても寒い日となりました。神宮関係者や来賓が見守る中、杣夫により内宮・外宮一本ずつの御樋代木（御神木）を切り出す「御杣始祭」が粛々と肅行されました。

翌日には、木曽奉賛会が中心となり御神木奉安祭が行われ、六日の奉送祭まで町を上げて様々な奉祝行事が行われました。

去る六月三日、木曽郡上松町にあります「赤沢自然休養林」で「御杣始祭（みそまはじめさい）」が執り行われました。「御杣始祭」とは、御神体をお納めする神聖な御器（おんうつわ）「御樋代（みひしろ）」を造るための御用材を伐採する儀式のことをいいます。

第六十三回 神宮式年遷宮 特集

『御神木祭』

長野県神道青年会 会長 毛利 ゆき乃
神社庁木曽支部教化委員



「内宮」「外宮」に用いられる御樋代木

六月四日

お木曳行事



上松町内をお木曳き

午前十時より、御神木を上松駅前にある奉安所まで曳行する「お木曳」行事が執り行われました。木遣りの掛け声に合わせ関係団体や一般の参加者など多くの人の手で町中を曳きながら練り歩きました。この日は前日と打って変わって晴天の夏日となり、気持ちのいい汗をかきながら賑々しく奉曳されました。

奉安祭

午後五時より、御神木を駅前に奉安する「奉安祭」が斎行されました。木曽支部の神職が中心となり、長野県神道青年会の会員も参加し、約三十名の神職により祭典を奉仕しました。

駅前には参列者と多くの見物人や報道関係者が集まり、普段のお祭りとは少し違った



上松駅前で御神木「奉安祭」



奉安祭を奉仕した神社庁木曽支部・長野県神道青年会

緊張感の中で祭典が始まりました。地元上松町諏訪神社徳原ちずる宮司の斎主のもと全員斎服にて奉仕し、同神社巫女による「浦安の舞」奉奏では祭員全員にて歌をつけるなど、厳かな雰囲気で行われました。

雅楽奉納

午後六時から信濃雅楽会により「朝日舞」と「落蹲^{うくぞん}」が奉納され、奉祝行事に華を添えました。



上松駅前で各種奉祝行事

奉納行事

この日は地元団体による獅子舞や長持ちなど数多くの奉納行事が行われ、物産展や花火の打ち上げ等もあり多くの人で賑わいました。

六月五日

神宮式年遷宮写真展

長野県神道青年会では、一般の方に御遷宮について関心を持つて頂く為に、全国の青年神職で組織する神道青年全国協議会にて作成された神宮式年遷宮に関する諸祭事をまとめた写真展を設置しました。御神木祭に來た多くの方が足を止め、じっくりと観覧される姿が見受けられました。

六月六日



御神木「奉送祭」

奉送祭

午前八時、奉安されていた御神木を奉送用のトラックに乗せ、神宮祢宜辻村光生様御参列のもと、木曽支部の神職を中心として御神木を送り出す「奉送祭」が厳粛に斎行されました。

木曽から伐り出された御神木は、各県にて歓迎を受け、奉祝行事を行いながら伊勢へと進んでいきます。



上松町を出発した御神木は、各所で歓迎を受けました



愛知県 名濃バイパス善師野駐車場にて「引継式」

今回の御神木も、長野県神社庁長を始めとする関係者が乗った車両と、地元保存会のお囃子に先導され、大勢の人たちに見送られながら岐阜県を通り愛知県犬山市の針綱神社へと向かいました。

御神木は長野県から岐阜県へ、岐阜県から愛知県へと入り、名濃バイパス善師野駐車場で待ち受けていた愛知県神社庁へと



愛知県犬山市針綱神社で歓迎を受ける「御神木」

「引継式」を行って、私たちの手を離れます。その後針綱神社では「犬山祭」に曳き出される絢爛豪華な車山（やま）や大勢の人に迎えられ、トラックに積まれた御神木が神社境内に曳き込まれて宮司を始め職員の皆様による「奉安祭」が執り行われました。

今回、二十年に一度の特別な神事に関わることが出来たのも御縁であり、とても貴重で有り難いことだと実感致しました。御

神木の御神威と参加した方々の熱気や想いなど、今回の経験で感じたすべてを二十年后に伝えていきたいと思っています。

令和十五年の御遷宮に向けて今後も様々な祭事が執り行われます。一般の方々にも御遷宮について関心を持って頂けるよう啓発活動が続けるとともに、今後のすべての祭事が滞りなく納められることをお祈り申し上げます。



愛知県犬山市針綱神社に曳き込まれる「御神木」

（写真提供／陸上自衛隊 第十二旅団司令部付隊 陸曹長 町田康行様・愛知県神社庁様）

靖國神社『みたままつり』

今年は大東亜戦争終結の昭和二十年より、数えて八十年の節目を迎えました。そこで、県神道青年会が毎年お参りしております「靖國神社『みたままつり』」と県内十七支部が交代で御奉仕しております「沖繩『信濃の塔』慰霊祭」を紹介致します。

皆様は「靖國神社」と聞くと、何を思い浮かべられますでしょうか？

最近では、気象庁が東京の桜の開花宣言をする際に観測する標本木があることから、毎春「靖國神社」を報道などで目にする…という方も多いと思います。

靖國神社は東京都千代田区九段下に鎮座



全国の崇敬者から奉納された提灯の前で(神青会員R7.7.15)

していますが、国家の為に尊い一命を捧げられた人々の御霊を慰め、その事績（御功績）を末永く後世に伝えることを目的に明治二年に建てられました「招魂社」にはじまり、明治十二年に「靖國神社」と社名が改められて今に至ります。

明治天皇が命名された「靖國」という社号には「国を靖（安）んじる」という意味があり「祖国を平安にする」「平和な国家を建設する」という願いが込められています。東京では新暦の七月にお盆を行います。その期間であります七月十三日から十六日にかけて靖國神社では「みたままつり」が行われます。

靖國神社のみたままつりは、昭和二十一年のお盆に長野県遺族会が御霊を慰める為境内で盆踊り大会を開催したのをきっかけとし、翌二十二年から始められました。今日では東京の夏の風物詩として親しまれ、毎年多くの参拝者で賑わいます。期間中、境内には大小三万灯を超える提灯や雪洞

（ぼんぼり）が掲げられ「御神輿振り」や「青森ねぶた」「和太鼓演奏」に「阿波踊り」などの奉納行事が行われます。

靖國神社

の境内にあ



境内にある「遊就館」

ります「遊就館（ゆうしゅうかん）」には、幕末から大東亜戦争までの戦没者や軍事関係の遺品・資料などが収められ、ペリー来航以降の国内の内乱・日清戦争から大東亜戦争に至る対外戦争についてなどが歴史を追って展示されています。館内には戦闘機や機関車、ロケット特攻機に人間魚雷（回天）などが展示され、また専用シアターではドキュメント映画も上映されており、日清・日露戦争から大東亜戦争までの近現代戦争史についてが、貴重な映像と史実に基づいて再現されています。靖國神社をお参りされましたら、是非遊就館にも足をお運び下さい。

沖縄「信濃の塔」慰霊祭

本年は、沖縄県にあります「信濃の塔」慰霊祭を南安曇支部が担当しました。参加者は山崎支部長、清水事務局、小平支部員、山越の四名で奉仕致しました。

一月二十八日、沖縄に到着すると気温は十三度、安曇野の冬からすると思っていた印象と異なりましたがほっとする暖かさでした。夕食後、ホテルにて装束・櫛等を荷解きし、深夜まで玉串を作りました。翌日は沖縄県護国神社で正式参拝を行い、旧海軍司令部壕では長い壕の中を歩いて進み、



摩文仁の丘「信濃の塔」にて慰霊祭

自決現場では御霊が安らかでありますようお祈りしました。

一月三十日、沖縄県糸満市摩文仁の丘にある「信濃の塔」にて慰霊祭を執り行いました。当日は好天に恵まれ、穏やかな波音と雅楽の音色が響く中、沖縄戦で散華した約千三百柱の御霊を含む長野県出身の戦没者五万五千余柱の安らかならんことを祈りながら奉仕しました。慰霊祭には長野県遺族会会長の池内宜訓氏、長野県知事の阿部守一氏をはじめとする約七十名が参列して玉串を奉り、平和への祈りを捧げました。池内氏は「戦争を知らない世代が九割となった今、いかにして戦争の記憶を語り継ぐかが重要である。」と訴えました。同日、佐久市出身の小池勇助軍医が最期を遂げた糸満市の糸洲の壕で、沖縄戦の事実を風化させず平和学習の場として活用するため、市では手すりの取り付け・献花台、案内板の設置等壕の整備が行われ、竣工式が執り行われました。

戦後八十年が経ち、改めて平和な世の中に生きる今を有難く噛み締めながら安曇野へ帰って参りました。

(山越秋穂)



初回のみ今昔の写真となります



- ①小内八幡神社
②中野市大字安源寺
③昭和初期

羽織袴に着物姿の
時代がうかがえる

選定理由

今は見ることのできない
昭和の景色を

宮司 片山 求



昭和30年代の
道路拡張により
分断された
現在の境内



初回のみ今昔の写真となります



- ①山家神社奥宮
②真田町 四阿山頂上
③昭和13年6月1日

社殿の大きさと
参列者の服装に驚く

選定理由

同じようにはできない
当時の信仰の深さを

宮司 押森 慎



平成30年造営
コンクリート造を
昔に倣い木造に
再建した社殿



懐かしの「昭和百年」に見る神社の風景

本年は昭和に換算すると「昭和百年」にあたる節目です。

これを機に各地の神社や集会所などで大切に保管されている

神社ゆかりの古い写真を募集し、特集記事として紹介いたします。

第二回は、編集委員が所蔵していた写真をお届けします。

白黒写真を募集します

神社に関する昭和の写真をお持ちでしたらご提供下さい。
下記情報も併せてお知らせ願います。

- ①神社名 ②鎮座地 ③撮影時期(例)昭和初期、〇〇記念行事など

写真は大切に取扱わせて頂き、ご返却いたします。また記録保存のためデジタルデータ化し、神社庁内にて保管させていただきますのでご了承下さい。

送付先：長野県神社庁庁報編集委員会宛 (必ず担当宮司を通じて神社庁へ)



御造堂 フォトニュース

○芝宮神社（上伊那郡飯島町七久保鎮座）

宮司 紫芝光司

社務所改築

事業費 約二〇〇〇万円

当社の社務所は、昭和四十八年に建設され五十年が経過し老朽化が進み、氏子からの要望も強く、令和五年に建設委員会を立ち上げ、令和六年七月に着工、同年十二月十五日に竣工祭を行い、正月の歳旦祭で本格的に使用開始となりました。

新しい社務所は椅子席にすること等で、使い勝手の良い工夫が凝らされたものが出来上がりました。

地域氏子の皆様、また関係各位の御協力に感謝申し上げます。



敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であつて、崇高なる精神を培ひ、太平を開くの基である。

神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を発揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。

ここにこの綱領をかかげて向ふところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと

一、世のため人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと

一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること

神道豆知識

服忌

家庭に不幸があつた場合、一般的には50日（仏教では49日）を忌中として個人を偲び、神棚に半紙を貼るなどして、おまつりを遠慮します。

忌の期間が正月をまたぐ場合は、忌が明けてからお神札を受けましょう。

なお、五十日祭（仏教では四十九日法要）を忌明けの神事とし、忌が明けたら神棚の半紙を取り除き、通常の生活に立ち戻るとされています。



新しく任命された神職を紹介します

新任神職の横顔

ひがしち
東良 勝文
まさふみ



熊野皇大神社 祢宜
北佐久支部 四十七歳

此度、北佐久郡軽井沢町鎮座熊野皇大神社祢宜を拝命致しました。

昨年度まで県外の神社にて奉職していましたが御縁を頂き長野にて御奉仕させて頂くこととなりました。

長野県の風土、文化を学び、一日も早く長野県の神職に相応しい御奉仕が出来ますよう精進して参ります。

若輩の身にて至らぬ点もあるかと存じますが御指導御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

くどう
工藤 淑高
よしたか



諏訪神社 祢宜
上小支部 二十六歳

昨年度まで県外の神社にて、四年間奉仕して参りました。

「神職は一生勉強だ」と諸先輩方より学び、また地域の皆様からあらゆる面で目置かれることが、自他共に認める神職の理想の姿かと思っております。

斯界での繋がりからも多くを得て、この職に就いて本当に良かったと心から思える体験を重ねられるよう自己研鑽に努めますので、今後とも御指導御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



うちぼり
内堀 晃司
こうじ
大屋神社 権祢宜
上小支部 二十八歳

この度、上田市の大屋神社権祢宜を拝命致しました。幼少期の頃は神社との深い関わりはありませんでしたが、去年から神職の仕事というものを学び、宮司の祖父が神職一筋の姿を見るにつけ、大屋神社への深い思い入れを感じておりました。

自分も宮司を支えながら祖父の思いを受け継げるような神職として奉仕に励んでいこうと思います。

何卒宜しくお願い致します。

はら
原 彰紀
あきのり



習焼神社 権祢宜
諏訪支部 二十八歳

此度習焼神社権祢宜を拝命致しました原彰紀と申します。

昨年まで京都の神社にて奉職をしており

ましたが、生まれ育ったこの諏訪の地に戻り曾祖父から奉仕をしていた習焼神社へ奉仕をさせて頂くことを嬉しく思っております。

長野の土地で新たに神職として歩みを進めることとなりますので、初心に立ち返り、浄明正直に神明奉仕に努める所存でございます。

また、「中今」の精神を忘れず地域の皆様方と協力し神社を後世に繋げていけるよう励んで参りたいと思います。

まだまだ神職としては未熟者でございますので、皆様方の御指導御鞭撻の程宜しくお願い致します。



はま
濱 健太郎
けんたろう
諏訪大社 権祢宜
諏訪支部 二十六歳

此度、諏訪大社権祢宜を拝命致しました。令和四年の式年造営御柱大祭と同時に奉職し、三年間出仕として御奉仕して参りました。この間、氏子の皆様の篤い信仰心や熱心な御奉仕を目の当たりにしまして、私自身も祭典の執行や社頭の護持に万全を期し、慇懃な奉仕を心掛けなければと改めて思っております。

甚だ未熟でございますが、斯界に少しでも貢献できるよう励んで参りますので、御

指導御鞭撻の程宜しくお願い致します。



島田 宏
しまだ こう
諏訪神社 宮司
上伊那支部
五十七歳

この度、辰野町諏訪神社の宮司を拝命致しました。

平成三年に國學院大學神職養成講習会にて正階を取得し、その後は医療に従事して参りました。

神職の家系に生まれ育った私にとって神社は常に身近な存在でした。当社は古くより地域の信仰の中心として親しまれております。

この由緒ある神社を護り、さらなる発展に尽力するとともに、地域の皆様のお力となれるよう精一杯努めて参る所存です。



林 香織
はやし かおり
八幡宮 祢宜
松塩筑支部
五十五歳

この度、八幡宮祢宜を拝命し身の引き締まる思いでございます。美しい山々に囲まれた自然豊かな宗賀の里で長年大切に守られてきた神社を、地域の方々と繋がり合い次の世代へと残し伝えていくことが神職と

しての使命の一つと感じております。

経験も浅く若輩者ではありますが、先輩神職の皆様方に御指導を頂きながら研鑽に励み、神明奉仕に努めて参る所存でございます。何卒宜しくお願い申し上げます。



木村 由布子
きむら ゆうこ
住吉神社 権祢宜
南安曇支部
四十九歳

信濃雅楽会に所属し、三十年余御奉仕する中で御縁を頂き、この度令和七年一月一日を以て、住吉神社権祢宜を拝命致しました。

神職としての一步を踏み出せた感動と感謝を忘れずに、心新たに神明奉仕に努めて参ります。

まだまだ経験も浅く未熟で至らない点もあるかと思いますが、諸先輩方から多くを学び、神職として人として成長できるように邁進して参りますので、御指導御鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



山田 晴己
やまだ はるき
大宮熱田神社 権祢宜
南安曇支部
二十六歳

此度、大宮熱田神社権祢宜を拝命致します。

した。

私は県外の神社で三年間奉職させて頂いておりましたが、本年四月より地元に戻り先祖が護ってきた神社で御奉仕することになりました。

祭典は地域ごと神社ごとで違いがある為、今は勉強の毎日ですが、神明奉仕に精進していく所存です。

皆様の御指導御鞭撻を宜しくお願い申し上げます。



平林 慶大
ひらばやし よしひろ
八王子神社 祢宜
大北支部
二十七歳

この度、大田市常盤鎮座・八王子神社祢宜を拝命致しました。

幼少の頃から神明奉仕をする祖父や父の姿を見ており、いつか跡を継ぐことを考えて育ちました。

今春から神職としての歩みを始めましたが、先人達が守ってきた信仰の奥深さに圧倒される日々です。

大切な伝統や文化を次の時代に繋ぐため、鋭意努力をして参ります。

浅学非才の身ではございますが、御指導御鞭撻の程宜しくお願い致します。

長野県神社庁長感謝状 三十万円以上寄附

支部名	神社名	鎮座地	氏名
飯伊支部	伴野神社	豊丘村	大原俊秀
更級支部	東福寺神社	長野市	宮尾和榮
更級支部	東福寺神社	長野市	寺澤 昇
更級支部	東福寺神社	長野市	和田文利
更級支部	東福寺神社	長野市	鹿島一雄

辞令

令和六年十二月

昇級・神職身分二級

若一王子神社	宮司	竹内直彦	三・一	大北
--------	----	------	-----	----

昇級・神職身分二級上

諏訪神社	宮司	宮島晃一	三・一〇	木曾
四柱神社	祢宜	北澤道生	三・一〇	松塩筑
住吉神社	宮司	飯田泰之	三・一〇	南安曇

昇級・神職身分二級

出速雄小萩神社	宮司	五十嵐輝	四・一	諏訪
四柱神社	権祢宜	角田雅大	四・一	松塩筑
三嶽神社	宮司	宇治橋牧子	四・一	松塩筑
穂高神社	権祢宜	鷲尾和浩	四・一	南安曇
大宮熱田神社	祢宜	山田美幸	四・一	南安曇

別表神社宮司任命

諏訪大社	本 宮司	村上益弘	四・一	諏訪
------	------	------	-----	----

任命

福岡社	兼 宮司	茅野理也	一・二	上伊那
日方磐神社	兼 宮司	茅野理也	一・二	上伊那
洲原神社	兼 宮司	茅野理也	一・二	上伊那
本郷神社	兼 宮司	茅野理也	一・二	上伊那
日曾利神社	兼 宮司	茅野理也	一・二	上伊那
大平神社	兼 宮司	茅野理也	一・二	上伊那
諏訪神社	兼 宮司	竜野太一	一・二五	北佐久
諏訪神社	兼 宮司	竜野太一	一・二五	北佐久
梅戸神社	兼 宮司	茅野理也	二・二	上伊那
吉原神社	兼 宮司	塩入 哲	二・二	上水内
諏訪神社	兼 宮司	高山広光	二・二〇	大北
諏訪神社	兼 宮司	須澤清昭	三・二五	南安曇
諏訪社	兼 宮司	今井 佑	四・一	上伊那
中曾倉神社	兼 宮司	今井 佑	四・一	上伊那
御坂山神社	兼 宮司	今井 佑	四・一	上伊那
粟野神社	兼 宮司	若槻徹也	四・一	上水内
穂長神社	兼 宮司	若槻徹也	四・一	上水内
秋葉社	兼 宮司	若槻徹也	四・一	上水内
諏訪神社	兼 宮司	若槻徹也	四・一	上水内
多賀神社	兼 宮司	太田秀史	四・一	上水内
武富佐神社	兼 宮司	塩入 哲	四・一	上水内
武八布施神社	兼 宮司	塩入 哲	四・一	上水内
富士浅間神社	兼 宮司	塩入 哲	四・一	上水内
三才諏訪神社	兼 宮司	長沼誠一	四・一	長野
矢原神明宮	兼 宮司	保尊 勉	四・一五	南安曇
諏訪神社	兼 宮司	保尊 勉	四・一五	南安曇

矢原神明宮	兼 祢宜	穂高賢一	四・一五	南安曇
諏訪神社	兼 祢宜	穂高克彦	四・一五	南安曇
伊波保神社	兼 宮司	内堀菜里	五・一〇	上小
篠井神社	兼 宮司	内堀菜里	五・一〇	上小
塩川市之町神社	兼 宮司	内堀菜里	五・一〇	上小
白鳥神社	兼 宮司	内堀菜里	五・一〇	上小
天神社	兼 宮司	内堀菜里	五・一〇	上小
國露津穗神社	兼 宮司	内堀菜里	五・一〇	上小
久保林神社	兼 宮司	内堀菜里	五・一〇	上小
青木神社	兼 宮司	内堀菜里	五・一〇	上小
廣野辺神社	兼 宮司	内堀菜里	五・一〇	上小
住吉神社	兼 宮司	内堀菜里	五・一〇	上小
巖島神社	兼 宮司	内堀菜里	五・一〇	上小
上澤神社	兼 宮司	内堀菜里	五・一〇	上小
今村神社	兼 宮司	島田 宏	五・二〇	上伊那
智子神社	兼 宮司	島田 宏	五・二〇	上伊那
智児神社	兼 宮司	島田 宏	五・二〇	上伊那
諏訪神社	兼 宮司	島田 宏	五・二〇	上伊那
手長神社	兼 宮司	島田 宏	五・二〇	上伊那
神明神社	兼 宮司	島田 宏	五・二〇	上伊那
落原神社	兼 宮司	島田 宏	五・二〇	上伊那
白山神社	兼 宮司	島田 宏	五・二〇	上伊那
大内山神社	兼 宮司	宮川英士	六・二〇	上水内
日郷神社	兼 宮司	宮川英士	六・二〇	上水内
丸栗神社	兼 宮司	宮川英士	六・二〇	上水内
秋葉神社	兼 宮司	塩入 哲	六・二〇	上水内
上ヶ屋神社	兼 宮司	越志秀徳	六・二〇	上水内
皇足穂命神社	兼 宮司	越志秀徳	六・二〇	上水内

新任	大屋神社	権祢宜	内堀晃司	一・一	上小
	住吉神社	権祢宜	木村由布子	一・一	南安曇
	八王子神社	祢宜	平林慶大	二・二六	大北
	諏訪大社	権祢宜	濱健太郎	四・一	諏訪
転入	八幡宮	祢宜	林 香織	六・一	松塩筑
本務替	大瀧神社 (北野神社より)	宮司	水井裕由	四・一	下高井
	戸隠神社 (中島神社より)	権祢宜	大杉明彦	六・二五	上水内
昇任	大屋神社	本 宮司	内堀菜里	一・一	上小
	諏訪神社	本 宮司	茅野理也	一・一	上伊那
	諏訪大社	本 権宮司	桃井義弘	四・一	諏訪
	諏訪大社	本 祢宜	北爪 聖	四・一	諏訪
葛山落合神社	兼 宮司	越志秀徳	六・二〇	上水内	
	兼 宮司	越志秀徳	六・二〇	上水内	
	兼 宮司	越志秀徳	六・二〇	上水内	
	兼 宮司	越志秀徳	六・二〇	上水内	
熊野皇大神社 (京都府 賀茂御祖 神社より転入)	本 祢宜	東良勝文	三・一	北佐久	
	本 祢宜	工藤淑高	四・一	上小	
	本 権祢宜	山田晴己	四・一	南安曇	
	本 権祢宜	山田晴己	四・一	南安曇	
太宮熱田神社 (新潟県 彌彦神社より転入)	本 権祢宜	山田晴己	四・一	南安曇	
	本 権祢宜	山田晴己	四・一	南安曇	
	本 権祢宜	山田晴己	四・一	南安曇	
	本 権祢宜	山田晴己	四・一	南安曇	

大屋神社	兼 宮司	内堀吉磨	二・一	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・一	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・一	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・一	上小
御座石神社	権祢宜	瀧澤千枝	二・三二	諏訪
	宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	権祢宜	平山甲之介	一・三一	木曾
	宮司	猿田英里	三・一四	南安曇
諏訪神社	宮司	北島和孝	三・三一	諏訪
	宮司	野黒重央	三・三一	上水内
	宮司	竹田繁彦	三・三一	上水内
	宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
伊波保神社	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
篠井神社	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
塩川市之町神社	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
白鳥神社	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
天神社	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
國露津穗神社	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
久保林神社	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
青木神社	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
廣野辺神社	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
住吉神社	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
厳島神社	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
上澤神社	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
諏訪神社	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
吉原神社	兼 宮司	宮林章夫	一・三一	更級
	兼 宮司	渡邊 修	一・二四	北佐久
	兼 宮司	渡邊 修	一・二四	北佐久
	兼 宮司	杉本英彦	二・九	大北
諏訪神社	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小
	兼 宮司	内堀吉磨	二・三二	上小

奉務神社 職名	正・二級	内堀吉磨	四・三三	上小
	正・二級	倉澤 祇	五・二一	長野
	正・二級	倉澤 祇	五・二一	長野
	正・二級	倉澤 祇	五・二一	長野
大屋神社名譽宮司	正・二級	内堀吉磨	四・三三	上小
	正・二級	倉澤 祇	五・二一	長野
	正・二級	倉澤 祇	五・二一	長野
	正・二級	倉澤 祇	五・二一	長野
八幡神社宮司	正・二級	倉澤 祇	五・二一	長野
	正・二級	倉澤 祇	五・二一	長野
	正・二級	倉澤 祇	五・二一	長野
	正・二級	倉澤 祇	五・二一	長野
穂長神社	兼 宮司	野里重央	三・三一	上水内
	兼 宮司	野里重央	三・三一	上水内
	兼 宮司	野里重央	三・三一	上水内
	兼 宮司	野里重央	三・三一	上水内
秋葉社	兼 宮司	野里重央	三・三一	上水内
	兼 宮司	野里重央	三・三一	上水内
	兼 宮司	野里重央	三・三一	上水内
	兼 宮司	野里重央	三・三一	上水内
諏訪神社	兼 宮司	野里重央	三・三一	上水内
	兼 宮司	野里重央	三・三一	上水内
	兼 宮司	野里重央	三・三一	上水内
	兼 宮司	野里重央	三・三一	上水内
多賀神社	兼 宮司	野里重央	三・三一	上水内
	兼 宮司	野里重央	三・三一	上水内
	兼 宮司	野里重央	三・三一	上水内
	兼 宮司	野里重央	三・三一	上水内
三才諏訪神社	兼 宮司	野里重央	三・三一	上水内
	兼 宮司	野里重央	三・三一	上水内
	兼 宮司	野里重央	三・三一	上水内
	兼 宮司	野里重央	三・三一	上水内
武八布施神社	兼 宮司	野里重央	三・三一	上水内
	兼 宮司	野里重央	三・三一	上水内
	兼 宮司	野里重央	三・三一	上水内
	兼 宮司	野里重央	三・三一	上水内
富士浅間神社	兼 宮司	野里重央	三・三一	上水内
	兼 宮司	野里重央	三・三一	上水内
	兼 宮司	野里重央	三・三一	上水内
	兼 宮司	野里重央	三・三一	上水内
宇賀神社	兼 祢宜	諏訪雅彦	四・二五	上水内
	兼 祢宜	諏訪雅彦	四・二五	上水内
	兼 祢宜	諏訪雅彦	四・二五	上水内
	兼 祢宜	諏訪雅彦	四・二五	上水内
信陰最上古湖神社	兼 祢宜	諏訪雅彦	四・二五	上水内
	兼 祢宜	諏訪雅彦	四・二五	上水内
	兼 祢宜	諏訪雅彦	四・二五	上水内
	兼 祢宜	諏訪雅彦	四・二五	上水内
熊坂神社	兼 祢宜	諏訪雅彦	四・二五	上水内
	兼 祢宜	諏訪雅彦	四・二五	上水内
	兼 祢宜	諏訪雅彦	四・二五	上水内
	兼 祢宜	諏訪雅彦	四・二五	上水内
大屋神社	兼 宮司	関口守和	四・一九	上小
	兼 宮司	関口守和	四・一九	上小
	兼 宮司	関口守和	四・一九	上小
	兼 宮司	関口守和	四・一九	上小
今村神社	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
智子神社	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
智児神社	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
諏訪神社	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
手長神社	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
神明神社	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
露原神社	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
白山神社	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
大内山神社	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
日郷神社	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
丸栗神社	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
秋葉神社	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那
	兼 宮司	島田悦子	五・一九	上伊那

令和7年度長野県神社庁歳入歳出予算書

歳入の部

(単位:円)

款	科 目	予算額	前年度予算額	比較増減△	附記説明
1	幣 帛 幣 饌 料	696,000	699,000	△3,000	神社本庁より
2	交 付 金	109,860,000	110,860,000	△1,000,000	本庁交付金
3	負 担 金	33,870,000	33,870,000	0	支部負担金、神社負担金、神職負担金、特別寄贈金
4	協 賛 金	5,900,000	5,900,000	0	特別寄贈金、特別協賛金
5	財 産 収 入	500,000	500,000	0	財産利子配当金
6	補 助 金	120,000	120,000	0	神社本庁より参事給与補助金
7	各 種 証 明 料	2,920,000	2,920,000	0	神職任命・登録料、承認料、各種手数料・証明料、階位授与交付金
8	諸 収 入	2,500,000	2,500,000	0	賽物収入、雑収入
9	管 理 費 収 入	600,000	600,000	0	庁舎管理費収入、関係団体管理費収入
10	過 年 度 収 入	200,000	200,000	0	
11	繰 越 金	12,834,000	21,831,000	△8,997,000	
	合 計	170,000,000	180,000,000	△10,000,000	

歳出の部

(単位:円)

款	費 目	予算額	前年度予算額	比較増減△	附記説明
1	神宮神徳宣揚費交付金	52,415,591	46,016,714	6,398,877	支部を通じて各神社へ
2	幣 帛 幣 饌 料	9,000,000	9,000,000	0	別表及特別神社、本務・兼務神社、献幣使参向神社、幣饌料供進神社、献幣使・随員旅費等
3	会 議 費	5,300,000	4,500,000	800,000	会議旅費、諸費
4	庁 務 費	42,966,000	40,686,000	2,280,000	神事費、儀礼費、役員報酬、諸給与及び福利厚生費、需要費
5	負 担 金	27,773,664	27,973,424	△199,760	神社本庁へ
6	事 業 費	14,200,000	14,200,000	0	大麻関係費、教化部費、庁報発行費、職員研修費、東海五県連合会費等
7	研 修 諸 費	300,000	300,000	0	神社庁研修諸費
8	庁 舎 維 持 費	900,000	800,000	100,000	修繕費、設備費、火災保険費
9	交 付 金	4,400,000	2,500,000	1,900,000	神職会、総代会、災害慰藉特別会計各交付金
10	積 立 金	2,300,000	2,300,000	0	役職員退職積立金、五県連合総会積立金
11	補 助 金	50,000	50,000	0	時局対策費
12	新庁舎建設費	0	20,000,000	△20,000,000	新庁舎事業会計へ
13	予 備 費	10,394,745	11,673,862	△1,279,117	
	合 計	170,000,000	180,000,000	△10,000,000	

令和7年度長野県神社庁災害救助慰藉特別会計歳入歳出予算書

歳入の部

(単位:円)

款	科 目	予算額	前年度予算額	比較増減△	附記説明
1	負 担 金	3,235,000	3,240,000	△5,000	支部負担金、神職掛金
2	災害救助慰藉特別会計交付金	700,000	100,000	600,000	神社庁・総代会
3	本 庁 見 舞 金	150,000	150,000	0	
4	雑 収 入	1,000	1,000	0	雑収入
5	繰 越 金	5,914,000	6,509,000	△595,000	
	合 計	10,000,000	10,000,000	0	

歳出の部

(単位:円)

款	費 目	予算額	前年度予算額	比較増減△	附記説明
1	災 害 慰 藉 費	3,685,000	3,685,000	0	神社災害慰藉費、神社総代慰藉費、神職災害慰藉費
2	神 職 掛 金	2,040,000	2,040,000	0	神職掛金積立金
3	本庁災害慰藉費	300,000	300,000	0	災害対策資金
4	運 営 費	60,000	60,000	0	事務費、旅費、雑費
5	予 備 費	3,915,000	3,915,000	0	
	合 計	10,000,000	10,000,000	0	



舞 見 中 署



<p>宮司 奥谷一文 他職員一同</p> <p>長野縣護國神社</p> <p>松本市美須々六番一号</p>	<p>名誉宮司 小平弘 宮司 保尊一 他職員一同</p> <p>穂高神社</p>	<p>宮司 水野邦樹 他職員一同</p> <p>戸隠神社</p>	<p>宮司 山崎洋文 氏子総代長 藤勇 職員総代一同</p> <p>生島足島神社</p> <p>上田市下之郷中池西七〇一</p>	<p>諏訪大社</p>
<p>宮司 竹内直彦 大町市大字大町二〇九七</p> <p>若一王子神社</p>	<p>宮司 堀内潔 他職員一同</p> <p>武水別神社</p>	<p>宮司 前島正</p> <p>手長神社</p> <p>諏訪市茶臼山鎮座</p>	<p>名誉宮司 遠藤久芳 宮司 牟禮一 他職員一同</p> <p>深志神社</p> <p>http://www.go.tvm.ne.jp/~yohashira</p>	<p>松本市</p> <p>四柱神社</p>
<p>宮司 今井貴美 総代会長 宮下憲治</p> <p>科野大宮社</p> <p>上田市常田鎮座 總社大宮</p>	<p>宮司 井出清一 総代長 佐久市田口鎮座</p> <p>新海三社神社</p> <p>佐久總社</p>	<p>宮司 市原貴美雄 職員総代一同</p> <p>富士山稻荷神社</p> <p>飯田市浜井町 破魔射場鎮座</p>	<p>宮司 滝和人</p> <p>御嶽神社</p> <p>木曾御嶽王滝</p>	<p>木曾總社</p> <p>御嶽神社</p> <p>宮司 武居哲也</p>
<p>宮司 立澤俊輔 祢宜立青木精三 總代会長</p> <p>矢彦神社</p> <p>上伊那郡辰野町小野</p>	<p>宮司 茅野理也 祢宜今井佑</p> <p>梅戸神社</p> <p>上伊那郡飯島町</p>	<p>宮司 矢島正稔</p> <p>三輪神社</p> <p>上伊那郡辰野町</p>	<p>宮司 鷺尾隆吉 總代会長 丸山重男</p> <p>小菅神社</p> <p>飯山市小菅の里鎮座</p>	<p>上田市中央北鎮座 眞田三代崇敬社</p> <p>大星神社</p> <p>宮司 工藤康高 總代長 金沢康浩</p>



舞 見 中 暑



<p>宮司 太田陽一 祢宜 藤井治樹 總代 長坂正</p> <p>小川神社</p> <p>上水内郡小川村小根山鎮座</p>	<p>宮司 山田充春</p> <p>大宮熱田神社</p> <p>松本市梓川梓鎮座</p>	<p>宮司 飯田泰之 祢宜 小林健</p> <p>住吉神社</p> <p>あづみ野</p>	<p>宮司 宮田伊彦 祢宜 宮田伊彦</p> <p>水無神社</p> <p>木曾郡木曾町福島鎮座</p>	<p>宮司 白鳥俊明 祢宜 白鳥俊明 權祢 富岡清彦 總代 新井亮男</p> <p>大御食神社</p>
<p>宮司 瀧澤けい基 祢宜 瀧澤理恵 權祢 瀧澤理恵</p> <p>象山神社</p> <p>長野市松代町鎮座</p>	<p>宮司 齋藤吉睦</p> <p>武井神社</p> <p>長野市東町鎮座</p>	<p>宮司 齋藤安彦 祢宜 齋藤友加里 權祢 齋藤紳悟</p> <p>湯福神社</p> <p>長野市箱清水鎮座</p>	<p>宮司 神田肇 祢宜 毛利ゆき乃</p> <p>八幡宮</p> <p>木曾郡木曾町開田高原西野</p>	<p>宮司 櫻井龍一 主任總代 成田眞一 會計 北島伸哉</p> <p>守田神社</p> <p>七二會鎮座 式内社</p>
<p>宮司 山崎佳宏 總代 長嶋山忠幸</p> <p>有明山神社</p> <p>安曇野市穂高有明字宮城彫刻で名高き裕明門</p>	<p>宮司 丸山肇 役員總代 一同</p> <p>西宮神社</p> <p>えびすの神 長野市岩石町鎮座</p>	<p>宮司 松井秀吾 總代 長矢口博文</p> <p>仁科神明宮</p> <p>国宝 大町市社宮本</p>	<p>宮司 伊原義雄 總代 長加藤潔</p> <p>鳩ヶ嶺八幡宮</p> <p>(重要文化財菅田別尊神像) 飯田市八幡町一九九九</p>	<p>宮司 有賀寛典</p> <p>小井川賀茂神社</p> <p>岡谷市小井川鎮座</p>
<p>宮司 齋藤吉睦 祢宜 深澤秀夫 權祢 深澤秀夫</p> <p>美和神社</p> <p>長野市三輪鎮座</p>	<p>宮司 伊藤光宣</p> <p>白山神社</p> <p>伊那市御園区鎮座</p>	<p>宮司 永持はな子 祢宜 宇治橋邦彦 權祢 小穴真希</p> <p>神明宮</p> <p>松本市村井町</p>	<p>宮司 宇治橋邦彦 祢宜 宇治橋邦彦 總代 長熊井芳彦</p> <p>小野神社</p> <p>塩尻市北小野鎮座</p>	<p>宮司 宇治橋牧子 祢宜 宇治橋牧子 權祢 宇治橋牧子</p> <p>三嶽神社</p> <p>塩尻市中西條鎮座</p>

 暑 中 見 舞 				
宮司宮澤佳廣 洲波神社 安曇野市豊科南穂高	宮司大澤明三 祢宜大澤節子 総代会長 蜂谷泉 鹽竈神社 奥州一之宮鹽竈神社御分社	宮司武藤弘樹 熊野出速雄神社 (皆神神社) 長野市松代町皆神山	宮司長沼忠行 祢宜長沼房一 権祢宜長沼誠 長沼神社 長野市大町鎮座	駒ヶ根市赤穂鎮座 大宮五十鈴神社 宮司白鳥俊明 祢宜白鳥操子  http://isuzujinja.com
宮司小間澤貴肇 荒船山神社 佐久市鎮座 総代会長 春日利夫	宮司山崎洋文 刈谷澤神明宮 総代会長 宮入康寿 東筑摩郡筑北村坂北鎮座 無形文化財お田植祭り	宮司代務 高橋守 五宮神社 木曾郡南木曾町田立鎮座 県無形民俗文化財花馬祭り	宮司伴野健一 稲荷神社 総代会長 春日利巳 佐久市臼田鎮座	飯山市五束鎮座 (国重文若宮八幡社) 健御名方富命彦神別神社 宮司高橋穰 祢宜高橋隆一 総代会長 松本隆一
宮司隱岐光洋 神明宮 安曇野市潮鎮座 祢宜 隱岐有紀子	宮司押森慎 山家神社 総代会長 松尾重則 婦人会長 大塚なお美	宮司石和大 白鳥神社 海野氏 氏神様 真田氏 氏神様 信州海野宿鎮座 上田市真田町長真田鎮座	宮司清住邦廣 飯沼神社 総代会長 関敏男 上田市生田鎮座	上田市武石鎮座 子檀嶺神社 宮司清住宗廣 総代会長 池内俊郎

編集後記

広報制作にあたり、全神職・全総代と県内二万を超える皆様のお手元に、どういった経路で届くのかを調べることから始め、「とにかく手に取ってもらい、中を見てもらい、そして読んで頂きたい…」そんな、歴代編集委員の皆様が当たり前のように願ってこられたことを念頭に置き、まずは広報のサイズをB五版からA四版にすることで、文字を大きく読みやすいものと共に、内容は中学生でも理解できる柔らかな表現を心がけ、専門用語には注釈を入れるようにしたいと思いつながらも、どれも表紙を開いて読んでもらわなければ意味が無いわけで、これらを委員メンバーの共通認識として三年間取り組んで参ります。これまで一番幼稚な委員長、若輩委員長ではございますが、若輩だからこそできることを意識しながら「昭和百年」「戦後八十年」を迎えた此の年、来る「御遷宮」に向けて、多くの方に興味を持って読んで理解して頂ける広報を編集して参りたいと思っております。今後は、当委員会でもホームページも見直させて頂き、二次元バーコードなどを使いホームページともリンクさせながらの新しい『神州』の展開を考えておりますので楽しみにして頂ければ幸いです。

編集委員長 白鳥俊明

第60回全国神社総代会大会が 長野県にて開催されますので 多くの皆様のご参加をお願い致します。

毎年、全国各地で開催されています「全国神社総代会大会」ですが、本年は長野県にて左記により開催致します。是非とも、多くの県内氏子総代の皆様で迎えをお願いします。(入場無料)



記

- 一、期日 十月二十八日(火)
- 一、開会 十二時三十分 清興開始
- 一、会場 ホクト文化ホール(長野市若里二一三)
- 一、清興 戸隠神社太々神楽
- 一、記念講演
- 演題 グローバルな視野で
若者と一緒に地域の未来を(仮題)
- 講師 長野県立大学学長 金田一 真澄 先生

第63回神宮式年遷宮 行事一覧

遷宮の主な祭典と行事 (実施年は前回遷宮の例による)

山口祭(令和七年)
御用材を切り出すにあたり山の神に安全を祈ります。

御杣始祭(令和七年)
御神体を納める「御樋代」の御用材を古作法により伐り出します。

御船代祭(令和七年)
「御樋代」を納める船形の「御船代」の御用材を伐採するおまつり。

木造始祭(令和八年)
御造営工事にあたり、御用材に墨を打ち、斧を入れて安全を祈ります。

御木曳行事(令和八年)
地元伊勢の住民が揃いの法被姿で御用材を両宮に曳き入れる盛大な行事。

全国の「特別神領民」も多数参加して、伊勢は勇敢な掛け声と木遣音頭に包まれます。

鎮地祭(令和十年)
新殿を建てる御敷地での最初のおまつり。「地鎮祭」に相当します。

宇治橋渡始式(令和十一年)
神宮の象徴となっている「宇治橋」も新しくなり、「渡女」や三世代揃いの夫婦を先頭に盛大に渡り始めを行います。

立柱祭(令和十四年)
新殿の建築にあたり、御柱の木口を木槌で打ち安泰を祈ります。

上棟祭(令和十四年)
正殿の棟上げの華やかなおまつり。棟木に連なる綱を引き「千歳棟 万歳棟、曳々億棟」の掛け声も高く棟木を木槌で打ち固めます。

御白石持行事(令和十五年)
御木曳行事と同様、地元伊勢の住民や全国の特別神領民が「御白石」を曳き、完成した真新しい御正殿の御敷地に奉納します。

杵築祭(令和十五年)
新殿の竣工にあたり御敷地を突き固めるおまつり。古歌を唱え、白杖で御柱の根本を突きながら新殿のまわりを巡ります。

後鎮祭(令和十五年)
新殿の竣工を感謝し、その平安を祈ります。

川原大祓(令和十五年)
「遷御」の儀に先だって、御装束神宝や神宮祭主以下の奉仕者を「川原祓所」で祓い清めます。

遷御(令和十五年)
式年遷宮の中核をなすおまつり。午後八時、全ての灯りが消された浄闇の中、大御神は本殿を出御、新殿で入御されます。

百名を超える奉仕者は御神宝等を手に付き従い、参道沿いの多くの奉拝者が見守る中、荘厳な古代絵巻が繰り広げられます。

遷御の翌日、天皇陛下から奉られる幣帛を新殿の大御神に奉納します。

宮中の楽師が神宮に遣わされ、御垣内の四丈殿で庭燎の灯りがゆれる中、深夜まで厳かに御神楽を奏でます。

奉幣(令和十五年)
御神楽(令和十五年)